

昭和拾六年九月

會報

第壹號

財團法人世界經濟調查會

名大
荒
3
1186



経済研究センター

會報發刊に當りて

本會報は財團法人世界經濟調査會の活動狀況を記録し、これを當會の役員並に當會設立の趣旨に賛同せられ、有力なる支援を賜つてゐる朝野諸方面の各位に報告として願つことを目的として刊行されるものであつて、本號がその第壹號である。尙、今後隨時發行する豫定である。

名古屋大学図書



11863904



本會設立披露晚宴
(昭和十六年六月二十二日於帝國ホテル)

目次

寫 眞 六月二十六日帝國ホテルに於ける本會設立披露晚餐會
財團法人世界經濟調查會設立經過……………五
設立趣意書寄附行爲及役員名簿……………七
昭和十六年度事業計畫……………一七
松岡外務大臣閣下主催茶會……………二〇
附 八田嘉明氏挨拶
第一回理事會……………二三
附 澤田理事長の挨拶及報告

設立披露會……………二六

附 八田會長代理挨拶、澤田理事長挨拶

松岡外務、河田大藏兩大臣閣下祝辭

日・滿・華・泰懇親茶會……………三七

附 澤田理事長挨拶、李滿洲國、褚中華民國兩大使閣下挨拶

委員會及研究部の事業……………四一

事務局の組織……………四四

以上

財團法人世界經濟調查會の設立經過概要

財團法人世界經濟調查會は日本經濟聯盟會對外委員會を改組擴充したものである。依つて本會の設立經過を記録するに當つては先づ右委員會設立の由來及事業の概要を略記し置くことが必要である。

抑も日本經濟聯盟會對外委員會はもと我が國策たる東亞經濟建設の事業に對し、海外諸國の理解及協力を促進するに當る機關として、昭和十四年四月、日本經濟聯盟會内に、同會々長男爵郷誠之助氏を委員長とし、日、滿、華經濟界に關係ある有力實業家を委員として「日本經濟聯盟會對外調查委員會」なる名稱の下に設置せられたものである。而して特命全權大使澤田節藏氏が事實上同委員會の事業を主宰したのであるが、昭和十五年一月に至り、同委員會の名稱は「日本經濟聯盟會對外委員會」と改稱され、澤田氏退官に伴ひ同委員會の副委員長に推舉せられた。

同委員會當初の事業としては東亞經濟に對する海外人の理解及興味を増進する目的の下に、英文月刊雜誌、The East Asia Economic News 及英文叢書 Economic Intelligence Series の刊行を手始めとし、各種の弘報啓發事業による經濟合作の促進を主としたのであるが、爾後、國際關係の推移に鑑み、また同委員會の發展に伴ひ、事業は漸次調査方面に伸張するに至り、昭和十五年三月以降、數種の小専門委員會の設置を見ることゝなつた。右専門委員會は何れも官廳及民間有力團體よりの協力に據るものにして、それら特定の目的を以て構成せられ、三ヶ月乃至七ヶ月位を以て各その調査研究を了し、關係官廳及協力を續けられたる民間關係方面に參考として報告を提出し使命を

終つたものであるが、それらの臨時的に構成せられたる委員會の事業以外に、昨秋九月には米國經濟研究委員會、十一月には獨逸經濟研究委員會等の常設機關を相次いで設置し、關係官、民間要路者を委員に委嘱し、毎週定期的に會合しそれら米國經濟、獨逸經濟等の調査に當り、猶米國經濟研究委員會は同年十二月大阪に支部を設置する等、時局の進展と相俟つて積極的に顯著なる活動を續けてゐる。然るに時局近來の進展に伴ひこれ等委員會を鞏固なる基礎の上に置き、今後一層組織的且つ繼續的なる活動を爲さしむべしとの要望が官民關係者間に期せずして擡頭するに至つた。

茲に於て郷誠之助男、八田嘉明氏、澤田節藏氏は、日本經濟聯盟會對外委員會を改組擴大し、新たな財團法人を設立することを決意し發起人としてその衝に當り、昭和十六年二月頃より着々運動に着手し、諸般の手續を了し、昭和十六年五月廿九日附を以て財團法人世界經濟調査會の設立を見、外務省監督の下に活動を開始するに至つたものである。

設立趣意書寄附行爲及役員名簿

○設立趣意書

世界は今や重大なる轉換期に臨めり、今次の歐洲大戰は米蘇兩國の動靜に伴ひ今後如何なる展開を遂ぐるや未だ豫斷を許さず。東亞に於ても支那事變勃發以來爰に四星霜を閱し未だ事變目的の完遂に到らず、歐亞に跨るこの戦火が何時終熄するかは逆睹し得ずと雖も、世界の一般情勢には必ずや大なる變動が齎らざる可く、就中政治的變化と相俟つて世界の經濟關係が今後愈々錯綜を極め、微妙且つ重要な作用を爲すに到る可きは疑を容れざる所なり。

惟ふに我が帝國の經濟は大陸國家としての經濟なり、換言すれば先づ日滿支を一體としたる經濟にして、更に進んでは廣き東亞の全地域を打つて一丸としたる廣域經濟ならざる可らず。斯る見地より今、歴史的動亂の時機に際し、世界の主要國家及國家群の經濟實情及我が帝國に對する經濟關係を具さに調査し、以て大東亞共榮圈の確立に資し、世界新秩序の具現に寄與することは正に現下の急務と謂はざる可らず。

曩に日本經濟聯盟會内に設立せられたる對外委員會に於ては上述の趣旨に基き既に

一、諸外國の經濟事情の調査
 二、對外經濟方策に關する攻究
 三、諸外國との經濟提携の誘導促進
 四、諸外國の經濟に關する情報の蒐集
 等の事業を行ひ來れる所、時勢の進運は之等事業の擴大強化を迫つて已まざるものあり、依て吾人は茲に新たなる財團法人世界經濟調査會を設立し之等事業の完遂を期するものなり。(昭和十六年五月)

○寄附行爲

第一章 名稱及事務所

第一條 本財團法人ハ財團法人世界經濟調査會ト稱ス
 第二條 本財團法人ハ事務所ヲ東京市ニ置ク
 必要ニ應シ適當ノ地ニ支部ヲ置クコトヲ得

第二章 目的及事業

第三條 本財團法人ハ世界經濟情勢ノ調査並ニ諸外國トノ經濟提携ノ促進ヲ爲シ以テ大東亞共榮圈ノ確立ニ寄與スルヲ目的トス
 第四條 本財團法人ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、諸外國ノ經濟事情ニ關スル調査
- 二、對外經濟方策ニ關スル攻究
- 三、諸外國トノ經濟提携ノ誘導促進
- 四、諸外國ノ經濟ニ關スル情報ノ蒐集
- 五、其他本會ノ目的達成ニ必要又ハ有益ナリト認ムル事項

第三章 役員

第五條 本財團法人ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名
 理事 長 一名
 常務理事 若干名
 理事 若干名
 監事 二名以上
 第六條 會長ハ理事會之ヲ推擧ス
 會長ハ本財團法人ヲ代表シ會務ヲ總理シ且理事會ノ議長トナル
 第七條 理事長ハ理事會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス
 理事長ハ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代行ス
 理事長ハ會長ヲ輔佐シ本財團法人ノ會務ヲ掌理ス
 第八條 常務理事ハ理事會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス

常務理事ハ理事長事故アルトキ其ノ指名ニ依リ其ノ職務ヲ代行ス
常務理事ハ理事長ヲ輔佐シ會務ヲ執行ス

第九條 理事ハ會長之ヲ委嘱ス

第十條 監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス

監事ハ本財團法人ノ事業及資産會計狀況ヲ監査ス

第十一條 役員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス

補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期満了後モ其ノ後任者就任スル迄其ノ職務ヲ行フ

第十二條 本財團法人ニ顧問評議員參與及委員ヲ置クコトヲ得

顧問ハ會長之ヲ委嘱ス

顧問ハ會長ノ諮問ニ應ス

評議員ハ會長之ヲ委嘱ス

參與ハ會長之ヲ委嘱ス

參與ハ重要ナル會務ニ參畫ス

委員ハ會長之ヲ委嘱ス

委員ハ調査企畫等ニ參畫ス

顧問、評議員、參與、委員ノ任期ハ之ヲ定メス但シ會長ハ其ノ委嘱事情及會務ノ狀況等ヲ斟酌ノ上必要ニ應シ之ヲ解嘱スルコトヲ得

第四章 理事會及評議員會

第十三條 理事會ハ會長、理事長、常務理事及理事ヲ以テ組織シ會長之ヲ招集ス

理事會ハ本財團法人ニ關スル一切ノ重要ナル事項ヲ審議決定ス

第十四條 理事會ニ出席スルコト能ハサル理事ハ書面ヲ以テ又ハ他ノ理事ヲ代理ト定メ表決ヲ爲スコトヲ得

理事會ノ議決ハ出席者並ニ前項書面表決者及代表表決者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十五條 評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ毎年一回又ハ必要ニ應シ隨時會長之ヲ招集ス評議員三分ノ一以上又ハ監事二名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ評議員會ヲ招集ス

第十六條 評議員會ハ本財團法人ノ資産又ハ事業執行ノ狀況ニ付報告ヲ受ケ且理事會ニ於テ必要ト認メタル重要事項ニ關シ評議ス

第十七條 評議員會ノ議長ハ評議員會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ委嘱ス

第五章 資金及會計

第十八條 本財團法人ノ資産ハ左ノ如シ

一、別紙財産目錄記載ノ財産

二、寄附金品

三、第一號、第二號ノ財産ヨリ生スル果實

四、雜收入

第十九條 本財團法人ノ基本財産ハ左ニ掲グルモノヲ以テ之ニ充ツ

一、前條第一號ノ財産中金參萬圓

二、基本財産ニ編入スヘキコトヲ指定シタル寄附金品

三、理事會ニ於テ基本財産ニ編入スヘキコトヲ決議シタル金品

第二十條 基本財産ハ處分スルコトヲ得ス但シ本財團法人ノ目的達成ノ爲必要アルトキ其他止ムヲ得サル事由アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十一條 本財團法人ノ資産中金錢ハ之ヲ郵便官署、銀行若クハ信託會社ニ預入レ又ハ有價證券トシテ保有スルモノトス

前項ノ銀行、信託會社及有價證券ノ選擇ハ理事會ノ決議ニ基ツクモノトス
金錢以外ノ資産ノ管理ハ理事會ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 本財團法人ノ經費ハ左記資産ヲ以テ之ヲ支辨ス

- 一、寄附金品中基本財産トナスヘキコトノ指定ナキモノ
- 二、基本財産ヨリ生スル收入

三、雜 收 入

第二十三條 本財團法人ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十四條 本財團法人ノ豫算ハ年度開始前理事會ノ決議ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ年度終了後遲滯ナク理事會ノ承認ヲ經ルモノトス

第六章 寄附行爲ノ變更及解散

第二十五條 本寄附行爲ヲ變更セントスルトキハ理事四分ノ三以上ノ同意ヲ得且主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十六條 本財團法人ヲ解散セントスルトキハ理事四分ノ三以上ノ同意ヲ得總資産ノ處分方法ヲ定メ且主務官廳ノ

許可ヲ受クルコトヲ要ス

第七章 附 則

第二十七條 本寄附行爲ノ施行細則ハ理事會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ定ム

○理事及監事氏名

(昭和十六年六月二十六日現在)

會 長	鄉 誠 之 助
理 事 長	澤 田 節 藏
常 務 理 事	守 島 伍 郎
同	蘆 野 弘
同	鮎 澤 巖
理 事	八 田 嘉 明
同	大 橋 忠 一
同	大 谷 登
外 務 次 官	

(いろは順)

尙本會參與の氏名は左記の通りである。

參與

同 同 監 同 同 同

事

外務省 大使館參事官
 通商局長
 調査部長
 主計局長
 理財局長
 爲替局長
 總務局長
 貿易局長
 商工省
 陸軍省 陸軍省軍務局長

企畫院次長
 大藏次官
 情報局次長

宮本武之輔
 廣瀬豊作
 久富達夫
 荒井誠一郎
 藤山愛一郎
 高島誠一
 田代重徳
 水野伊太郎
 高瀬眞一
 谷口恒二
 竹内新平
 原口武夫
 椎名悦三郎
 石黒武重
 武藤章

(順序不同)

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

興亞院政務部長
 遞信次官
 駐日滿洲國大使館參事官
 商工次官
 對滿事務局次長
 海軍次官
 陸軍次官
 拓務次官

大久保利賢
 岡田永太郎
 賀屋興宣
 及川源七
 津島壽一
 向井忠晴
 山田龍雄
 山梨武夫
 古田俊之助
 船田謙一
 兒玉謙次
 小島新次
 荒川昌二
 澤本頼雄
 木村兵太郎
 北島謙次郎

興亞院	情報局	企畫院	拓務省	逓信省	海軍
經濟部長	第三部長	第五部長	拓南局長	管船局長	海軍省軍務局長
					參謀本部第二部長
					軍令部第三部長

菱沼	景山	柴勝	法華	石橋	山越	迫水	岸偉	新木	宇佐	石井	竹内	川村	尾關	前田	岡本	岡本
	誠	勝	津孝	長	道	久	偉	榮	美	井	德	直	將	田	敬	清
勇	一	男	太	英	三	常	一	吉	彦	康	治	岡	玄	稔	純	福

昭和十六年度事業計畫

一、序 言

現下國際關係の緊迫に鑑み特に重要使命達成の爲め設立せらるる財團法人「世界經濟調查會」は、其の寄附行爲に示す如く、世界經濟情勢を調査すると共に諸外國との經濟提携を促進し、以て大東亞共榮圈の確立に寄與する目的を以て左の事業を行はんとするものである。

- (一) 諸外國の經濟事情の調査
 - (二) 對外國經濟方策に關する攻究
 - (三) 諸外國との經濟提携の誘導促進
 - (四) 諸外國の經濟に關する情報の蒐集
 - (五) 其他理事會に於て必要と認むる事業
- 而して本年度に於ては和戰兩様の場合に即應し得べきことを期せんとする趣旨の下に左記調査弘報啓發及對外工作

等の諸事業を實施する計畫である。

二、調査事業

- (イ) 米洲經濟調査
 - 全米洲（北、中、南米）に亘る諸國の經濟産業の實情に關する調査を行ふこと
- (ロ) 歐洲經濟調査
 - 全歐洲（必要に應じ植民地及近東諸國を含ましむ）に亘る諸國の經濟産業の實情に關する調査を行ふこと
- (ハ) 蘇聯經濟調査
 - 蘇聯の特殊事情に鑑み別に調査班を置き之を爲すこと
- (ニ) 東亞經濟調査
 - 東亞共榮圈と諸外國との間に於ける經濟關係に關する調査を行ふこと
- (ホ) 世界經濟機構調査
 - 今次大戰の歸結が世界經濟機構に重大なる影響を及ぼすべきことを豫想し、猶將來行はることあるべき世界平和及經濟會議に備へて世界經濟機構に關する調査に着手し、我方の之に關する基本的方針の確立に資すること
- (ヘ) 臨時特別調査
 - 政府等の委嘱に依り臨時に特殊の事項に關し調査を行ふこと

三、弘報啓發事業

- (一) 出版事業
 - (イ) 世界經濟調査會會報（邦文）
 - 本財團法人事業の要領を記載刊行すること
 - (ロ) 世界經濟調査會紀要（邦文）
 - 本財團法人の調査の結果刊行し得べきものを定期又は不定期に刊行すること
 - (ハ) 東亞經濟叢書（英文不定期刊行）
 - (ニ) 諸外國圖書の翻譯出版（邦文不定期刊行）
- (二) 弘報事業
 - (イ) 講演會、講習會の開催
 - (ロ) 映畫、ラジオ、レコード其他に依る啓發事業

四、對外工作

諸外國との經濟提携の誘導促進の爲、本財團法人は其の調査事業乃至弘報啓發事業と關聯せしむる等の方法に依り日本財團法人特有の人的資源及人的聯絡を利用し、外國實業家、技術家等との接觸連絡乃至特殊外人及外人機關の利用等を圖ること。

松岡外務大臣閣下主催茶會

本會の監督官廳である外務省に於て松岡大臣閣下は本會役員及其他關係者を昭和十六年六月十二日(木曜日)午後四時より外務大臣官邸に招待の上、激勵の辭を述べられ、これに對して八田會長代理より謝辭を述べ、主客茶菓を共にして歡談した。當日の出席者及八田會長代理の挨拶は左の通りである。

出席者

主人 松岡大臣閣下

澤田節藏殿	守島伍郎殿	蘆野弘殿	鮎澤巖殿
八田嘉明殿	大谷登殿	津島壽一殿	船田一雄殿
大久保利賢殿	荒井誠一郎殿	岡田永太郎殿	向井忠晴殿
古田俊之助殿	兒玉謙次殿	高島誠一殿	大橋忠一殿
水野伊太郎殿	武藤章殿	北島謙次郎殿	山越道三殿
石井康殿	荒川昌二殿	荒木光太郎殿	小野幸太郎殿

飯野浩次殿	田代重徳殿	法華津孝太殿	前田稔殿
川村直岡殿	宮本武之輔殿	岸偉一殿	野呂一雄殿
大橋薫殿	藤森國郷殿	穂田弘志殿	矢野連殿
佐藤述殿	小島秀雄殿	大谷稻穂殿	扇一登殿
並川義隆殿	佐分利健殿	池田卓一殿	二村貞信殿
神田外茂夫殿	鈴木宗作殿	柴山司馬殿	山口文治郎殿
塚田收殿	渡邊浩殿	渡邊壽郎殿	奥野勁殿
阿部吟次郎殿	大島堅造殿	神野亮二殿	山崎景介殿
林彙邇殿	松隈國健殿	戸張正胤殿	出田富也殿
友田祕書官殿			

(順序不同)

外相主催茶會に於ける八田嘉明氏挨拶

本日は會長郷男爵が御病氣の爲め御出席になられませんので、甚だ僭越乍ら御許を願つて一同に代りまして一言御挨拶申し上げます。

今回財團法人世界經濟調査會が設立せられ、吾々がその役員を仰せつかることになりました處、外務大臣閣下には公務御多端の折柄にも拘りませす、特に吾々の爲めに本日此の御丁寧なる席を御設け下さいました上、只今御懇篤なる激勵の御言葉を賜はりました事は一同の洵に感激に堪へないことでありまして、衷心より厚く御禮を申し上げますと

共に、御期待に添うやうに専心協力一致、世界經濟調査會設立の目的達成の爲めに最善の努力を傾倒する覺悟を固めて居りますことを、此際申上げて置き度いと存じます。

世界經濟調査會は私より改めて申上ぐる迄もなく、日本經濟聯盟會内に設けられておりました對外委員會を改組擴充して此度財團法人と致しましたものでありまして、大東亞共榮圈の確立を目指し我が國運の進展に貢獻することを期する次第であります。

而して右目的達成の爲本會は世界經濟情勢の調査其の他各般の事業を行ふのでありまして、現に米國經濟研究部、獨逸經濟研究部、其の他の専門委員會を設け官界及民間の有力者を委員に委嘱し鋭意調査研究を致して居りまして、御蔭を以て既に今日までも相當の成果を擧げてゐると確信致して居りますが、猶東亞共榮圈研究部、其の他の研究部等を設け事業を一層擴大強化し權威的なるものに致したい、これが吾々の抱負なのであります。然し一應その事業が調査といふことになつてをります限り、その性質上、世間をあつと言はせるやうな所謂華々しい宣傳は出来ませんが一步一步健實に、深く根を下ろしまして、直ちに外部には現はれなくとも徹底的なる調査を進め、國策の遂行に寄與致したいと念願致して居ります。當會の事業に對しましては朝野各方面より多大の御援助を賜はる事となつて居りまして、此點は深く感謝致して居るところであります。この事業たるや斯様に國策に寄與するといふことを目標として居りますので、その事業の年限は單に何ヶ年といふが如き限られたる期間でなく、永久にとは言ひ得なくとも相當長い間繼續せらるべきものと考へられますが、何れに致せ吾々一同その精根の限りを盡して此の事業の育成に努むる決心で居りますから、外務大臣閣下を初め御列席の各位には今後充分に御鞭撻下さるやう御願ひ申上げます。本日は誠に有難う御座いました。此れを以て簡單乍ら御挨拶と致します。

第一回理事會

第一回理事會は設立披露會に先立ち昭和十六年六月二十六日(木曜日)午後六時より帝國ホテルに於て開催し、別項の通り澤田理事長より挨拶及設立經過報告があつて散會した。當日の出席者は左記の通りである。

第一回理事會出席者氏名

理 事 長	澤 田 節 藏 君	八 田 嘉 明 君
常 務 理 事	守 島 伍 郎 君	大 谷 登 君
	蘆 野 弘 君	岡 田 永 太 郎 君
	鮎 澤 巖 君	津 島 壽 一 君
理 事	廣 瀬 豐 作 君	向 井 忠 晴 君
	北 島 謙 次 郎 君	古 田 俊 之 助 君
	宮 本 武 之 輔 君	船 田 一 雄 君
	久 富 達 夫 君	荒 井 誠 一 郎 君
	荒 川 昌 二 君	藤 山 愛 一 郎 君

第一回理事會臨席者氏名

參 與	田 代 重 德 君	水 野 伊 太 郎 君	竹 内 新 平 君
-----	-----------	-------------	-----------

原口 武夫君	竹内 徳治君	山越 道三君
椎名 悦三郎君	石井 康君	法華 津孝太君
岡 敬純君	宇佐 美珍彦君	柴 勝男君
前田 稔君	新木 榮吉君	景山 誠一君
尾關 將玄君	岸 偉一君	菱 沼 勇君
川村 直岡君	迫水 久常君	

澤田理事長の挨拶及報告

これから豫て御通知申上げました通り、財團法人世界經濟調査會の第一回理事會を開催致します。本日郷會長が御病氣御引籠り中でありますので、寄附行爲第六條に據り私が代りまして此の席を汚します。

今日の理事會は今夕の本財團設立披露會に皆様の御集まり下さいます機會を利用して、一應本財團の設立經過に関する事項を御報告申上げることが便宜であらうと存じまして、開催致しました次第であります。左様な譯で此の席には監事、參與の方々にも御出席を御願ひして御座いますから豫め御承知置き願ひます。

これから本財團の設立經過其の他に就て私から概略御報告申上げます。

先づ設立經過につきましては、御承知の通り國際關係が逐日險惡化して行く現下の趨勢に於きましては、諸外國の經濟事情をもつと徹底的に調査研究すると共に、關係諸外國との經濟提携の促進に努力を傾倒することが我が國の急務でありまして、これが爲めには從來の日本經濟聯盟會對外委員會を改組擴充して財團法人といふ基礎の鞏固なものにして、此の急務に應處すべき事業を行ひ以て大東亞共榮圈の建設といふ我が國策の推進に寄與したい、斯様な議が昨秋頃から對外委員會内に起り慎重協議し又關係の皆様御意見を伺ひ準備を進め、去る五月十日財團法人設立許可申請を東京府を経て、外務省に提出致しました處、五月廿九月を以て外務大臣より許可になりました次第であります。

次に役員に關しましては御手許に差上げてあります役員名簿の通り、郷男爵を會長とし其の他理事、監事等をそれぞれ御委囑申上げました。私には圖らずも理事長といふ御話で御座いまして、私は其の任ではないといふことを申したのではありませんが折角の御薦めで御引受けすることに致しました。何卒今後宜敷御援助下さいませ様に御願ひ申上げます。

本年度の豫算に就きましては寄附行爲第廿八條の規定に基き、設立者に於て御手許に差上げてあります通り、年額金百萬圓の豫算を編成致し、補助金の關係もあり只今外務省を経て大藏省に提出し御審議を願つて居りますので、修正變更を要する點もあると存じますから更に理事會を開催して御審議を願ふ積りで御座います。事業計畫に就き、御手許に差上げてありますものは、事業計畫書を外務、大藏兩省に提出して御審議を願つて居りますが、その内、米國經濟研究部、獨逸經濟研究部、大阪委員會等の事業は日本經濟聯盟會對外委員會時代より行つて居りますものを今後一層擴充して行く豫定であります。尙その他の方面にも積極的に事業を進めて行く計畫であります。猶最後に事業の運営に就きまして一言申上げたいと思ふのでありますが、寄附行爲第十三條に「理事會は本財團法人に關する一切の重要な事項を審議決定す」と規定せられて居りますように、本財團の事業は理事會の御決定に俟つのであります。理事會は本財團の中樞機關とし最も重要な機關であります。年二回位は開催し尙臨時必要ある時は其の都度御參集を願ひたいと思つて居ります。

又參與の方々には重なる會務に御參與願ふことになつて居りますので、參與會も、必要に應じ隨時開催致したいと思つて居りますから、此の點豫め御承知置き願ひたいと存じます。此れを以て簡單ながら私の御報告と致します。

設立披露會

本會の設立披露晚餐會は六月二十六日(木曜日)午後七時第一回理事會終了後帝國ホテルに於て開催された。當日は松岡外務、秋田拓務兩大臣閣下、李滿洲國大使閣下、伊藤情報局總裁閣下、星野前企劃院總裁閣下並に軍、官、民方面の有力なる各位、及八田會長代理、澤田理事長以下本會役職員約百五十名出席、先づ郷會長に代て八田理事挨拶を述べ、次で澤田理事長の挨拶あり、八田理事來賓の健康を祈つて乾杯をなし、松岡外務大臣閣下、河田大藏大臣閣下(廣瀬次官代讀)の祝辭の後、李滿洲國大使閣下主唱のもとに本會のために乾杯を行つて盛會裡に午後八時散會した。右會合に於ける出席者氏名、八田會長代理、澤田理事長の挨拶、並に松岡外務、河田大藏(廣瀬次官代讀)兩大臣閣下の祝辭は左の如くである。

出席者氏名 (○印は出席の通知ありて缺席)

- 松岡洋 右殿
- 廣瀬 豐 作殿
- 荒川 昌 二殿
- 門 脇 季 光殿
- 佐藤 信太郎殿
- 秋 田 清殿
- 北島謙次郎殿
- 友田 二 郎殿
- 水野伊太郎殿
- 吉岡 範 武殿
- 鈴木貞一殿
- 宮本武之輔殿
- 加瀬 俊 一殿
- 法華津孝太殿
- 長谷川進一殿
- 伊藤 述 史殿
- 久富 達 夫殿
- 大河平隆棟殿
- 吉村 男 也殿
- 田代 重 德殿

- 藤村 信 雄殿
- 藤 森 圓 郷殿
- 楠 田 光 男殿
- 原 口 武 夫殿
- 景 山 誠 一殿
- 岡 本 清 福殿
- 嬉 野 通 軌殿
- 石 川 信 吾殿
- 中 村 健 夫殿
- 堀 内 茂 忠殿
- 尾 關 將 玄殿
- 川 村 直 岡殿
- 藤 瀬 五 郎殿
- 吉田 健 一 郎殿
- 戸 田 貞 次 郎殿
- 大 島 永 明殿
- 三 森 良 二 郎殿
- 伊 藤 和 雄殿
- 李 紹 庚殿
- 玉 井 楠 夫殿
- 追 水 久 常殿
- 椎 名 悅 三 郎殿
- 山 田 成 利殿
- 高 木 惣 吉殿
- 柴 勝 男殿
- 佐 藤 述 殿
- 大 谷 稻 穂殿
- 渡 邊 浩 殿
- 内 田 源 兵 衛殿
- 島 居 龍 次 郎殿
- 宇 佐 美 珍 彦殿
- 神 鞭 常 孝殿
- 津 島 壽 一 殿
- 吉 岡 幸 一 殿
- 大 橋 信 吉殿
- 山 本 宗 次殿
- 松 隈 秀 雄殿
- 森 永 貞 一 郎殿
- 敏 野 浩 次殿
- 森 武 夫殿
- 手 島 治 雄殿
- 扇 一 登殿
- 市 川 義 守殿
- 前 田 稔 殿
- 塚 田 收 殿
- 太 田 九 州 男殿
- 竹 内 德 治殿
- 石 井 康 殿
- 藤 山 愛 一 郎殿
- 園 田 三 朗殿
- 新 木 榮 吉殿
- 太 宰 正 伍殿
- 荒 井 誠 一 郎殿
- 古 木 隆 藏殿
- 竹 内 新 平殿
- 相 田 岩 夫殿
- 眞 田 穰 一 郎殿
- 鈴 木 宗 作殿
- 矢 野 連 殿
- 岡 敬 純殿
- 林 彙 邇殿
- 柴 山 司 馬殿
- 今 井 和 夫殿
- 山 越 道 三殿
- 小 野 幸 太 郎殿
- 岸 偉 一 殿
- 中 村 元 督殿
- 中 島 宗 一 殿
- 柳 田 誠 二 郎殿
- 下 村 悌 治殿
- 工 藤 昭 四 郎殿

- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| 萬代順四郎殿 | 大島堅造殿 | 大谷登殿 | 寺井久信殿 |
| 中瀬精一殿 | 莊田雅雄殿 | 永島義治殿 | 柳瀬省吾殿 |
| 有吉義彌殿 | 市原章則殿 | 松隈國健殿 | 岡田永太郎殿 |
| 平井好一殿 | 神野亮二殿 | ○内田茂殿 | ○井奥義光殿 |
| 梅村於外男殿 | 戸張正胤殿 | 萩原繁殿 | 船田一雄殿 |
| 渡邊壽郎殿 | 塚本榮殿 | 佐分利健殿 | 奥野勁殿 |
| 出田富也殿 | 山室宗文殿 | ○長岡徳治殿 | 向井忠晴殿 |
| 大塚俊雄殿 | 池田卓一殿 | 津田元一殿 | ○吉田初次郎殿 |
| 二村貞信殿 | ○住友吉左衛門殿 | 古田俊之助殿 | 鑄谷正輔殿 |
| ○淺野良三殿 | 堀新殿 | 田島繁二殿 | 岸本彦衛殿 |
| 橋本圭三郎殿 | 關桂三殿 | ○鶴見左吉雄殿 | 塚田公太殿 |
| 石坂泰三殿 | 鈴木祥枝殿 | ○齊藤武夫殿 | 小竹茂殿 |
| 緒方竹虎殿 | ○三木武吉殿 | 田中都吉殿 | 田中齊殿 |
| 古野伊之助殿 | 郷敏殿 | 星名信二殿 | 星野直樹殿 |
| 眞田外菟雄殿 | 宮山春雄殿 | 菱沼勇殿 | 白崎享一殿 |
| 八田嘉明殿 | 澤田節藏殿 | 守島伍郎殿 | 蘆野弘殿 |
| 鮎澤巖殿 | 荒木光太郎殿 | 野呂一雄殿 | 岡本季正殿 |

(順序不同)

八田會長代理挨拶

本日郷會長が親しく御挨拶を中上げる筈でございましたが、御承知の通り御病氣でございますので、甚だ僣越でございますが私代りまして御挨拶を申し上げます。どうぞ御許しを願ひます。

本夕は、此の度財團法人世界經濟調查會が設立相成りましたに付きまして御披露を申し上げたく、旁々御指導御援助を仰ぐ爲に御懇談の機會を得たいと存じまして此の粗筈を催しましたる所、外務大臣閣下、拓務大臣閣下、滿洲國大使閣下、伊藤情報局總裁閣下、星野前企畫院總裁閣下並に軍部、官廳、民間各方面の有力なる閣下各位には御繁忙中をも特に御繰合せの上御來臨の榮を賜りましたことは、主催者と致しまして洵に感謝に堪へないことでございます。謹んで御禮を申し上げます。

此の度財團法人世界經濟調查會を設立致しました趣意は、先刻御手許に差上げてございます設立趣意書に盡して居ります通りでございます。即ち東亞共榮圈建設の爲には、日々劇しく變化致して居ります世界各國の政治經濟事情を調査致しまして、常に最新の情勢を明かに致して置くことが今日の時局下に於て極めて必要であると存するのでございますが、今回世界經濟調查會を法人として設立するに至りました所以も實は是にあるのでございます。

本財團の仕事は、實は今度初めて着手するわけではございませぬ。昭和十四年四月に日本經濟聯盟會内に設置されました對外委員會の手に依つて行つて参りました事業を繼承致すものであります。一昨年對外委員會が設立せられました以來、總ての事業に付きまして、本日此處に御臨席を賜りました官私各方面の格別なる御協力を戴きまして、相當の成果を收めて参つて居るのであります。最近の時局の推移に照しまして、從來の日本經濟聯盟會の對外委員

會を將來の爲め改組擴充致しまして、最も基礎を鞏固に致しまして財團法人として一層積極的に有効適切なる事業を行ふようにしようと云ふ議が昨年の秋頃から同志の間に起りまして、此の間慎重協議を致しました結果、郷誠之助男、澤田節藏氏及び不肖八田の三名が設立者となりまして關係各方間の御支援の下に準備を進めまして、去る五月十日財團法人の設立許可申請書を東京府を経て外務省に提出致しました處、五月二十九日附を以ちまして許可に相成つた次第でございます。

今後に於きます本財團の事業は、只今申上げましたやうな趣意に従ひまして、既に對外委員會時代より着手して居ります事業を、益々擴充強化して行きたいと思つて居りますが、其の事業は調査といふことが主でありますので、仕事の性質上決して華々しいと云ふことではございませぬ。寧ろ之を避けまして一步一步堅實に深く根を下しまして、外部には見えませぬでも實際は徹底的な調査研究を遂げまして、國策の遂行に十分に寄與致したいと云ふ考へで進みたいと思つて居ります。是は申上げるまでもなく洵に容易な業でございませぬことは十分一同の自覺して居る所であります。併しながら關係者一同此の事業の爲には今後全力を擧げて進んで参りたい決心でございしますので、何卒今後閣下各位に於かれまして宜しく御指導御援助を賜はりますやう特に御願ひを申上げる次第であります。

尙ほ本財團の事情に對しましては既に朝野の各方面から多大の御援助を賜はつて居りまして、關係各省の次官、局長各閣下を初め、有力なる官民各位が理事、參與又は監事等を御引受け下さいまして、財界各方面からも多大の御寄附御後援を戴いて居りますことは、吾々の感謝に堪へない所でございまして、此の機會に於きまして厚く御禮を申し上げます。

又此の際特に申上げたいことは、本會に於きましては對外委員會時代以來、殆ど毎週缺かすことなく米國經濟研究會又獨逸經濟研究會等を開きまして、既に何れも數十回に上つて居るやうな次第であります。又其の他時々各種の特殊問題の研究會を開いて居ります。是等の研究會には各官廳を初め會社銀行等の當局の方々には本當に早朝から會合せられまして極めて熱心に御討議なさつて居られるのであります。是は本會の一つの大なる特色と申して差支へないかと存するのであります。委員各位は何れも御本職がおりになつて而も非常に御繁忙の方々であられるのでありますにも拘らず、斯くの如く熱心に御協力下さることは本會關係者一同の最も多とする處でございまして、是亦此の機會に改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

最後に本團は只今も申上げましたやうに日本經濟聯盟會對外委員會を改組擴充致したものでありまして、日本經濟聯盟會の是までの御協力に對しましては亦謝意を表する次第であります。

以上甚だ其の意を盡しませぬが、本財團の設立趣意等に付きまして簡単に御説明申上げました次第であります。詳細は御手許に差上げて居ります小冊子等について御覽を戴くことを御願ひ致したいと思ひます。尙ほ將來此の事業に對しまして、皆様より色々御忠告或は御尋ね等のあります場合何卒忌憚なく御示しを願ひたいと存じます。本日は洵に有難く謹んで重ねて御禮を申上げる次第であります。有難うございました。

澤田理事長挨拶

今、八田さんの御挨拶で、外務大臣閣下初め御列席の閣下各位に對する御挨拶は萬事を盡して居ると存じます。従つて私が茲に蛇足を加ふる必要もないのであります。唯、今晚の此の會合を準備致しました事務當局として此の機會に一言御斷りをさせて戴きたいと存じます。實は本財團は漸く生れたばかりの赤ん坊でありまして、人員等も整ひませず、僅かはその催しに付きましては實は大車輪をやつた次第であります。かたがた設備萬端、殊に席次等に付き

ましては不行届きであり、失禮な廉も多々あらうかと存じます。此の點は幾重にも御赦しを願ひたいと存するのであります。

次に、世界經濟調査會設立披露會と銘を打つて今夕の會を催しましたが、實は只今八田さんから御説明下さいました如く、本會は決して大衆を向ふに廻はして華々しく太鼓鼓を打つて行くことを致しません。寧ろ表に現はれず國家の爲め必要と信ずることは専心努力を傾倒するつもりで居ります。而して今日此の非常時局に際しまして政府當局は勿論のこと、民間の諸團體に於きましても、一億一心、國策の遂行に御努力になつて居りますが此の際に吾々の些々たる團體が多少なりとも御奉公を致すことが出来ずならば、是は正に國民の一員として本懐の至りであると考へます。仕事が入目に立つとか立たぬとかいふことは全く度外視して兎も角實効を擧げたいと心懸けて居る次第であります。時局柄、此のやうな披露會を催して皆様の御列席を願ふことすらも吾々は如何かと考へました。併しさうやかながら是だけのものを生み出すに付きましても、監督官廳である外務大臣閣下は勿論、其の他關係各省の大臣閣下を初め首腦部の方々が吾々の微意を御酌み取り下さいまして、陰に陽に御支援を賜はり、又民間の有力團體の方々に於きましてもよく吾々の意の存する所を御諒解下さいまして熱心なる御後援を戴き、今日あるを得ました以上、兎に角一應御挨拶の粗筈は一つ設けなければならぬのではないかと云ふやうに考へました次第で御座います。本會に於きましては官民各方面の御方々、並に只今八田さんから御話になりましたやうに本會の仕事の特徴であります所の各關係官廳、各民間の關係團體の方々が毎週早朝から御參集下さつて、情報の差支へのないもの持合せを互に披露して之を檢討し、さうして此の非常時局突破の爲に何等かの貢獻をしやうと努力して居らるることでありませぬ。斯くして本會の各種委員に當時出席の委員所屬の官廳及び民間諸團體は單に、物質的御援助を賜るのみならず、それ以上に精神的に非常な御援助を賜はつて居られますので、今晚は之ら委員の方々に御臨席を御願ひした次第であります。猶又昨年

末からは、大阪でも月二回會合を開いて居りまして、是等の諸君が關西側で熱心に吾々と協力して下さいる以外に、しばしば遠路態々、夜行列車で上京せられ、朝東京驛に着くと直ぐ八時半の工業俱樂部の會合に参加せられる、人は或は酔狂極まる話と云はれるかも知れませんが、併し其の御熱心に付ては、吾々非常に感激して居るのであります。今夕は此の大阪部會の諸君が豫想以上に多數御列席下さつて居ります。斯う云ふ方々の持寄つて下さる調査研究を討議し盡して、掘下げて、さうして吾々事務局の不束な者であります、之を纏めまして、皆様にサーヴィスすると云ふ心組でやつて居ります。是は國家全體の機構から申せば極めてささやかなる會ではありますが、官民が眞に一致結合して、此の國難突破の爲に出来るだけの御貢獻をしようと思ふ誠意の發現と信するのであります。斯う云ふ御熱心な方々は、今日此處に多數御列席であります、これは各位御自身の御熱誠のあることも勿論でありまして、吾々の非常に多としてゐる所であります、同時に各位の所屬されます各關係官廳、又民間諸團體の首腦の方々が此の趣旨を御諒解下さいまして斯様な御援助を戴いて居りますことに付きましては、一同の感激に堪へない所でありまして、今晚の設備、座席其の他色々の點に互り不行届の點を御詫び申し上げますと共に、本會の意のある所を一言申し上げます、委員各位の有力なる御協力を謝し且又委員各位及び斯の如く協力させて戴く各官廳の首腦者、なほ又、各民間團體の御列席の首腦者の方々に厚く御禮を申上げる次第であります。

松岡外務大臣閣下祝辭

本夕は、極めて意義深き世界經濟調査會創立御披露の盛宴に當り、御祝辭に添へて、聊か所感を申述べる機會に接しましたことを衷心欣快と致すものであります。

今次歐洲戰爭の勃發を迎へてより間もなく、諸外國の評論界に於て早くも戦後の經營に關する議論が姿を現はしましたことは、各位御承知の通りであります。勿論、平時に於て戦時對策を考へ、戦時に於て一面平時對策を練るのは識者先覺の本領として、當然のことではありますけれども、矢張り前大戰の記憶なり、教訓なりが、一層之を然らしめたものに相違ないと思ひます。

要するに、政治、經濟、社會各般の深刻なる問題は、其の解決の一端として戰爭を促がし、戰爭の發展は、又更に多くの新らしき問題を提供する、といった状態ではありますが、四圍の形勢より、今次大戰の歸趨を察しまするに、戦ひは濟んでも、世界は到底元の世界に立戻るものではなく、各方面に於て、必然重大なる變革が起ると申すことは、内外知名評論家の一致した斷案と認められるのであります。

御列席各位に直接關係の深い一二の例をとりましても「金の將來」といふこと、「ブロック經濟乃至は廣域經濟の行方」といふことなどが、皆此の變革の波を瀆つて、新たなる面目を呈し、新たなる意義を帯び來るに相違ないと考へます。無論、是等一聯の題目は、各位に置かれまして、平素親しく御調べの事柄でもあり、私より唯今彼れ是れ申述べる筋ではありませんが、一言次の事は力説しておきたいのであります。即ち、將來の我が經濟、我が金融を律すべき指導原理は、とりも直さず、「新東亞經濟體制」の理念であるといふこと、言葉を換へて申せば、八紘一宇の大精神を映した「皇道經濟の原理」である。といふことであります。猶、別の表現を借りますならば、我が東亞新秩序の下に在つては諸民族をして各其の所を得しむべきであるといふ事は、人と物をして其の所を得しめ物資も宜しきを制し人間の生活を本として、公平に、充分に利用せらるべきであると申すことであります。私の屢々切言致す「天業の恢弘」も興亞の大業も之を置いては所詮實現を期し得るものではありません。

我が朝野に重きを爲す日本經濟聯盟會は、夙に此の間の情形に照し多年の蘊蓄を傾けて、種々施設せらるる傍、「對外委員會」なるものを設けて、諸外國の經濟事情に關する調査は素よりのこと、對外經濟政策及對外經濟提携といった國策的分野にまで互り、和戰兩全の策につき、孜々として攻究研鑽を重ねられました。其の時機と言ひ、其の御著眼と言ひ、私共の敬服措く能はざる所であります。

然るに本事業の上に、更に一大擴張強化を計らんが爲、委員會は今回「財團法人世界經濟調査會」として茲に劃期的發展を遂げ、一路本來の使命に向つて邁進せらるるに至りました。顧て彌々人意を強うする次第であります。

皇國の上下は今只管に、總力戰態勢を護り立つるに日も是れ足らざる折柄、經濟の正面に、新たに強力なる一翼の延び行く事の如何にも心強く感ずるのであります。事苟くも經濟金融に關する限り、臨機の處置も、恒久の對策も本調査會に就て、萬全の道を學び得ることとなりました。刻々變轉して已まざる局面に應じて、打てば響く如き機關の完成期して待つべきものあるを確信致します。

幸先よき本調査會の創立を祝福し、茲に朝野の囑望を代表して、本事業の大成と、その前途彌々多幸ならんことを祈るものであります。

河田大藏大臣閣下祝辭 (廣瀨大藏次官閣下代讀)

本日は河田大藏大臣が此の會合に出席せられることを楽しみにして居られたのであります。生憎急に差支がありまして、出席が出来なくなりまして甚だ遺憾に存じて居られる次第であります。就きましては私に代つて出席致し、豫て用意をして居られました挨拶の言葉を述べるようにと云ふこととございました。私は其の使命を帯びまして出席致したような次第でございます。外務大臣の御挨拶は非常に長いと云ふこととございましたが、大藏大臣の用意せ

られた御挨拶は餘り長くないようでありますから、茲に大藏大臣の代りに其の御挨拶を述べさせて戴きたいと存じます。

此の度財團法人世界經濟調查會が設立せられて、今夕茲に御披露の盛宴を舉げらるるに當り、御挨拶を申述ぶる機會を得ましたことは私の欣快とする所でございます。

世界經濟調查會に付きましては、當會が未だ日本經濟聯盟内の對外調査委員會と呼ばれて居りました當時から吾々は其の事業の内容を伺ひ、甚だ結構なことと思ひまして意を強う致しますと共に、將來の發展を祈つて居りました譯であります。でありますからして、今回當會が改組擴充せられて、財團法人として活動せらるることになりましたことに對しては、其の成長を御喜び申し上げますと共に、關係役員並に關係の方々々に對し、今後一層奮勵せられまして、所期の目的を達成せられることを切望して已まない次第であります。

惟ふに、今日世界の經濟は各國共に戰時乃至は準戰時状態にありまする爲に、産業、貿易、財政、金融等の諸政策には常に急激なる變革が行はれつつありまして、其の實情を把握すると共に、我が國に及ぼす影響を考察致し、是が對策を確立することは刻下の急務となつて居ります。而して斯かる對策の樹立遂行の爲には、前に述べました各分野に於ける世界各國の經濟事情を詳さに調査研究致しまして、其の實體を究明して置くことの肝要でありますことは申すまでもないことであります。此の方面に於ては我が國朝野共に今後不斷の努力を必要とすると思ふのであります。斯かる際に世界經濟調查會の誕生を見ましたことは洵に慶賀の至りでありまして、吾々は御當會の今後の活動に對し、大に期待を掛け、將來の發展を祈る者であります。簡單ながら是を以て御挨拶に代へまする次第であります。

日・滿・華・泰懇親茶會

日・滿・華・泰四ヶ國の親善をはかり、併せて本會發行の日本に於ける最初の泰字出版である「東亞的東亞」の出版記念として、本會主催の下に日・滿・華・泰の代表及び學生を七月十四日(月曜日)午後四時より、芝高輪の淺野總一郎氏邸庭園に招待茶會を開催した。出席者は李滿洲國大使、褚中華民國大使、ルアン・ラッタナチップ泰公使館書記官等をはじめ、四ヶ國の官民學生百餘名にして、特に李香蘭、汪洋、草芬の諸嬢も參加した。

先づ、澤田本會理事長挨拶を述べ、李滿洲國大使に次いで褚中華民國大使の祝辭があり、一應式を終つた。閉式後、松旭齋天勝、石井小浪の餘興に興じ、模擬店に於いてビール、サイダーの滿を引きつつ歡談、四ヶ國親善の麗しき情景を展開して、薄暮散會した。

當日澤田理事長、李滿洲國、褚中華民國兩大使閣下の挨拶は左の如くであつた。

澤田理事長挨拶

本日は豫て申上げました通り、此の度當財團法人世界經濟調查會に於きまして、東亞の四大國たる滿・華・泰・日四國相互の理解及び親善を増進する目的を以て「東亞的東亞」號と題する畫報を發行致しましたので、之れを機會に在京四ヶ國の有力者相互の親睦を圖りたいと存じ、茲に此の園遊會を開催致しました所、李滿洲國大使閣下、褚中華民國

國大使閣下、ラッタナチップ泰國公使館書記官を始め多數各位には此の暑さにも不拘、御多忙中を御操合せ御來會下さいましたことは主催者として洵に欣快に堪へないことでありまして、謹んで厚く御禮を申し上げます。

世界經濟調査會は昭和十四年四月に設立されました日本經濟聯盟會對外委員會を改組擴充致し、この五月廿九日に財團法人組織に改めたものでありまして、諸外國との經濟提携を促進し大東亞共榮圈の確立に寄與することを其の目的と致してをります。この目的達成の一端として、當會は昨年以來この畫報の刊行を企てまして、滿洲國大使館、中華民國大使館及び泰國公使館の御協力とわが政府當局の御支持の下に準備を進め、殊に我が國に於きましては、最初の試みたる泰語活字を使用致しまして、此の劃期的な畫報を刊行し、既に滿・華・泰國に相當部數を御寄贈致してありますので、これらはそれ／＼有効適切なる方面に配布して戴けることと期待して居ります。僅か六十頁許りの小冊子でありまして、不十分な點が少くないとは存じますが、然し、その狙つてをります滿・華・泰・日四國の親善増進といふことは今日の國際情勢に鑑み極めて適切且重要であると信するのであります。即ち今日戰雲が全世界を覆はんとする様な重大時局に際しまして東亞諸民族がその共存共榮を圖る爲めには東亞四大國の政治的、經濟的、文化的、提携協力を促進することが急務であると信するのであります。當會が「東亞的東亞」號を刊行致しました所以も又本日この會合を開催致しました所以も、この使命達成に幾分なりとも寄與致したい微意にほかならないのであります。この微意を御諒察下さいまして、緩に御歡談下さいませれば、洵に幸に存じます。唯折角御來會下さいましたのに別段何の風情も御座りませんで甚だ恐縮であります。些か茶菓を用意致して置きましたから御隨意に召上つて戴きたく存じます。又これから二三の餘興もある豫定になつてをりますので、御覽願ひたいと存じます。最後に當會が本日此の催を致しますに當りまして淺野家に於かれて、非常なる御好意を以てこの御邸を御開放下さいましたことは洵に感謝に堪へないことでありまして、茲に厚く御禮を申し上げます。

これを以て簡單乍ら私の御挨拶と致します。

李滿洲國大使閣下挨拶

今回世界經濟調査會より御出版に相成りました「東亞的東亞」を中心にして、本日此の美しき庭園に日・滿・華・泰四國の代表者及び青年等が相集り交驩することが出来ました機會に、一言御挨拶を申し述べますことは、私の欣快とするところであります。

世界經濟調査會は、會つては日本經濟聯盟對外事務局として多大の成果を擧げられつつありましたが、今般、その組織を更に擴大強化し、世界經濟調査會として新發足せられ、時局に對應せる經濟關係の調査研究を以つて東亞共榮圈確立の爲に、更に大いなる貢獻を爲さるるであらうことは私の確信して疑はないところであります。

時局は彌々緊迫し、重大さを加へつつありますが、我東亞に於ける四獨立國は一層提携を密にし、團結を強化して新東亞の建設に邁進しなければなりません。この意味に於いて、本日の斯の如き催しは非常に有意義なる次第でありまして、主催者たる澤田理事長閣下に敬意と謝意を表する次第であります。將來も、隨時機會ある毎に、此の種の意義深き催しを開催せらるるよう、併せて希望するものであります。終りに世界經濟調査會の益々御發展をお祈りいたします。

褚中華民國大使閣下挨拶

貴會編纂の「東亞的東亞」の發刊を紀念して本日茲に大使館同人及び我が留學生等が御招待に預りました事を厚く御禮申上ます。

中國の諺に「天時、地利、人和」と申すことがありますが、本日の會は洵によくこの諺に當嵌つて居ります。

即ち、昨日までの鬱陶しい空模様が本日は變じてこの様に晴上り而も暑氣を大して感じません。これこそ所謂天の時であります。又我々が唯今居りますこの場所は、かゝる美しい純日本の庭園であります。これ即ち地の利であり日・滿・華・泰の代表者及び多數の若人等が和氣藹々として相語らつて居りますことこそ人の和であります。

以上申述べました様に「天時、地利、人和」を得て居ります以上この會が最も成功裡に進行して居りますのは洵に當然であります。今後も本會を例として度々かゝる集ひが行なはれましたならば欣快至極であると存じます。それ而就て今回は日本側の御招待を得ましたから次は我々各國が順次皆様を御招待致したら如何かと存じます。

この美しい純日本の庭園や諸設備、餘興等を拜見させて頂きました御禮に次は各國が各々その人情風俗をあらはす方法で主催致しましたならば一層興趣深いことと存じ又一層お互の意思疏通を計り得ると考へます。

終りに貴會の隆昌を祝し、簡單乍ら以上を以て御挨拶に代へます。

委員會及研究部の事業

本會の事業達成の爲、日本經濟聯盟會對外事務局時代より既存の米國經濟研究委員會、獨逸經濟研究委員會及大阪委員會の諸委員會は何れも官民各關係方面の専門的權威者を以て組織し、本會が財團法人として改組を遂げた後も引續き當面の諸重要問題に付隔意なき意見及情報の交換を行ふことを趣旨とし、毎週又は隔週一回宛會合を行つてゐる。尙、米國及び獨逸國經濟に關する基本的調査をなし併せて米國經濟及獨逸經濟各委員會の活動目的達成の爲資料の提供等をなすため各主査指導の下に世界經濟調査會の事務局員を以て構成せる米國經濟研究部、獨逸經濟研究部の兩部は本財團法人の結成以來益々之が充實整備を圖ると共に、新に英帝國經濟研究部及世界新機構研究部を設け夫々調査研究を開始した。尙、蘇聯、拉典亞米利加及東亞の諸部門に對する特別の研究部の設置計畫をも着々進めて居る。此等委員會並に諸研究部の概況を述べれば左の如きものである。

一、米國經濟研究委員會及米國經濟研究部

米國經濟研究委員會は官民各方面の委員二十名を以て組織し毎週一回水曜日午前八時半より會合し、去る七月末迄に既に四十六回の會合を重ね、米國の軍事豫算、援英、援蘇、參戰、勞働、資金凍結、貿易、就中輸出許可制、對中南米工作等々の重要問題につき討議研究を行つてゐる。

次に右委員會に對する資料の提供等をなし猶米國經濟に關する基礎的調査を行ふことを目的として設けられたる米

國經濟研究部も着々部員の充實を計り政治、財政、金融以下十數項目に付専門擔當部門に於ける調査計畫の確定を見た。尙昨秋以來繼續中の「米國國防經濟力に關する調査」も着々進行してゐる。

二、獨逸經濟研究委員會及獨逸經濟研究部

獨逸經濟研究委員會の構成も亦上記米國經濟委員會と同様であつて、毎週一回金曜日午前八時半より會合し、七月末迄に前後三十五回の會合を重ねたが歐洲經濟新秩序問題に關聯せる重要問題につき研究討議を繼續し、就中最近は獨蘇關係と其の見透し、獨逸國及占領地區に於ける食糧問題等につき論議を盡してゐる。

次に右委員會と緊密なる關係を保ち、獨逸國經濟事情に關する基礎的調査を行ふべき獨逸經濟研究部も亦、獨逸を中心とする歐洲廣域經濟圈の問題並に歐洲と東亞との關係の問題を主要研究題目とし、其の第一段階として獨逸と世界各地域との貿易關係の分析を取り上げたが、目下調査中の獨逸と東亞との貿易關係の調査の完結と共に右第一段階を終了する豫定である。

三、英帝國經濟研究部

本研究部は去る六月初旬に設置せられ、創立に伴ふ諸般の事務即ち研究員の充實、事務所の整備、資料の蒐集及整理等々に忙殺されてゐたが、漸く右事務も一段落を告げ調査に着手した。

四、世界新機構研究部

當會に於ては今次大戰の歸趨が世界政治經濟機構に重大なる影響を及ぼすべきことを豫想し猶將來行はるゝことあ

るべき世界平和及經濟會議に備へんが爲、世界新機構研究部を設け調査に着手した。本研究部は當分の間は各國語に於ける既存文獻に據る基礎的調査を行ふこととし、他方本問題に關し既に資料蒐集及文獻による研究を試みつゝある國際關係研究會等と緊密なる連絡を保ち實質的なる調査を進めてゐる。

五、大阪委員會

當會に於ては大阪地方に於ける關係各方面の委員十數名を以て大阪委員會を組織し毎月二回會合し米國經濟に關する諸般の問題を審議してゐる。七月末日迄に既に十三回會合を開いてゐるが、各會合には本部より關係者出席する外、中央官廳方面よりも隨時出張臨席され講述又は討論に参加さるゝことを例としてゐる。因に將來は本委員會を擴充して米國經濟のみを主眼とせず廣く世界經濟に亘る諸般の問題を討議することとし、やがては當會大阪支部の設置に至ることを期してゐる次第である。

事務局の組織

本會の事業達成のため諸般の事務を處理遂行するため事務局を設け、常務理事守島伍郎君局長として事務を掌理し、常務理事鮎澤巖君次長として之を補佐すると共に、總務、事業兩部長を兼ね、常務理事蘆野弘君調査部長を兼ね野呂一雄君は財務監督として、會計事務の監督の任にあつてゐる。而して、現在事務局は差當り、左記の通り理事長室及び三部八課に分たれてゐる。

一、理事長室秘書課

特に指定したる連絡に關する事項

二、理事長室會計課

豫算及び決算に關する事項

2、現金、預金及び有價證券の出納及び保管に關する事項

3、物品の購入及び保管に關する事項

4、財産及び不用品の處分に關する事項

5、會計帳簿の保管に關する事項

三、總務部庶務課

1、事務局各部課事務の連絡統合に關する事項

2、理事會、評議員會、委員會其の他の諸集會に關する事項

3、諸税、諸給與、諸願届、官公署及び法規に關する事項

4、職員の進退、身分に關する事項

5、職員の福利増進に關する事項

6、部内の取締に關する事項

7、諸規程の立案起草に關する事項

8、借地、借家及び營繕に關する事項

9、其他、他の部課の主管に關せざる事項

四、總務部文書課

1、文書の接受、發送及び保管に關する事項

2、文書の淨書、印刷及び謄寫に關する事項

3、文書及び記録の編纂保存に關する事項

4、會印、役印の管守に關する事項

五、調査部企畫課

各研究部及び委員會の連絡統合に關する事項

六、調査部資料課

調査資料の蒐集、整理、保管及び閱覽に關する事項

七、事業部編輯課

八、事業部弘報課
刊行物の編纂に関する事項

- 1、刊行物の発行及び配布に関する事項
- 2、講演、放送、映畫其他、弘報に関する事項

尙、主たる事務所は麴町區有樂町一ノ五東日會館別館内にあり、事務局長室、總務部、調査部及び米國經濟研究部を置き、その他は事務室狹隘のため、左記各所に分室を設置してゐる。

- 理事 部長 室 (麴町區丸ノ内日本工業俱樂部ビル内)
- 事業 部 (小石川區小石川町一ノ一東亞經濟懇談會内)
- 獨逸經濟研究部 (麴町區丸ノ内三ノ六仲四號館内)
- 米國經濟研究部分室 (赤坂區田町七ノ一一)
- 米國經濟研究部分室 (小石川區小石川町一ノ一東亞經濟懇談會内)
- 英帝國經濟研究部 (小石川區小石川町一ノ一熱研ビル内)

昭和十六年九月十二日印刷
昭和十六年九月十六日發行

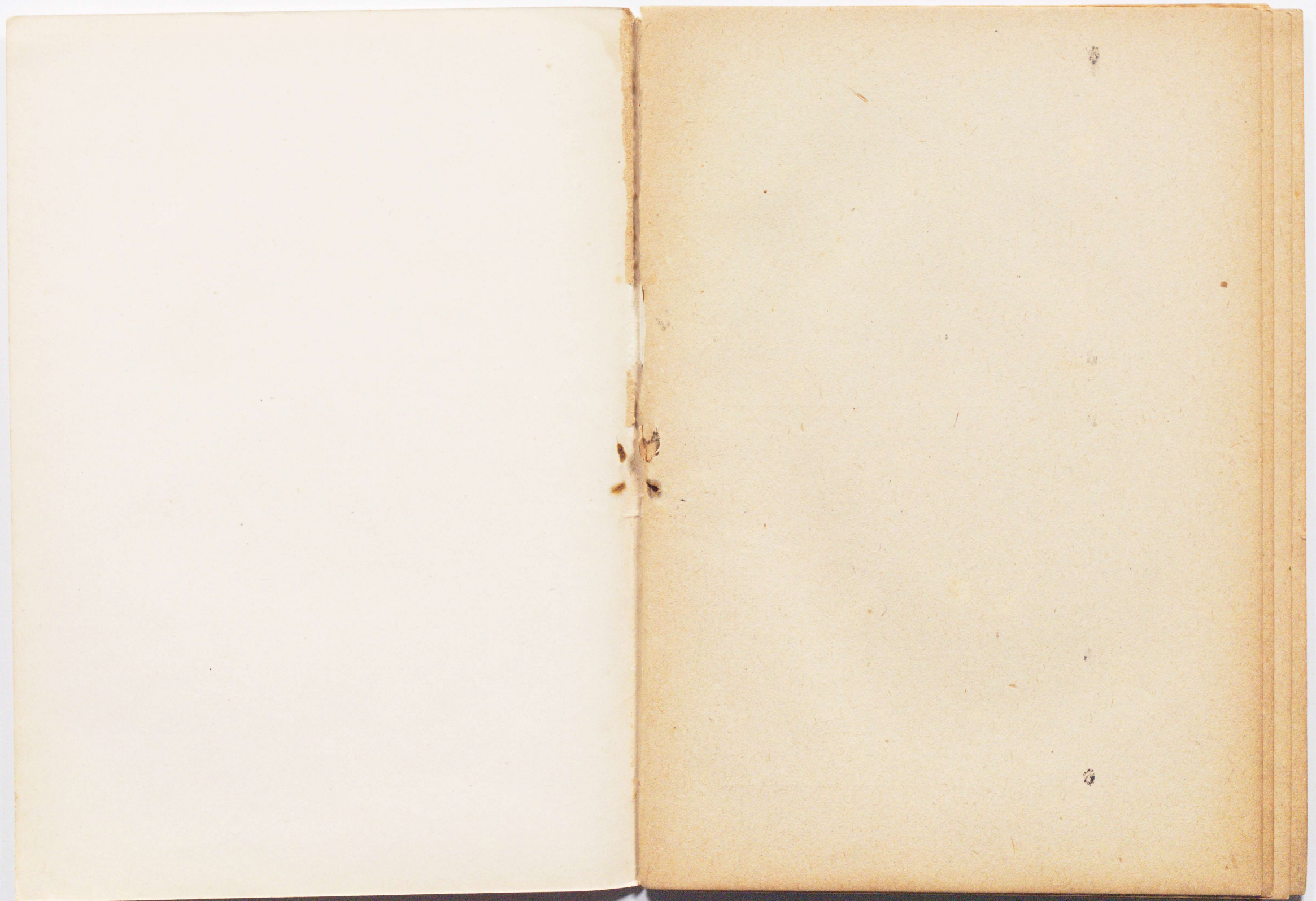
非賣品

不許複製

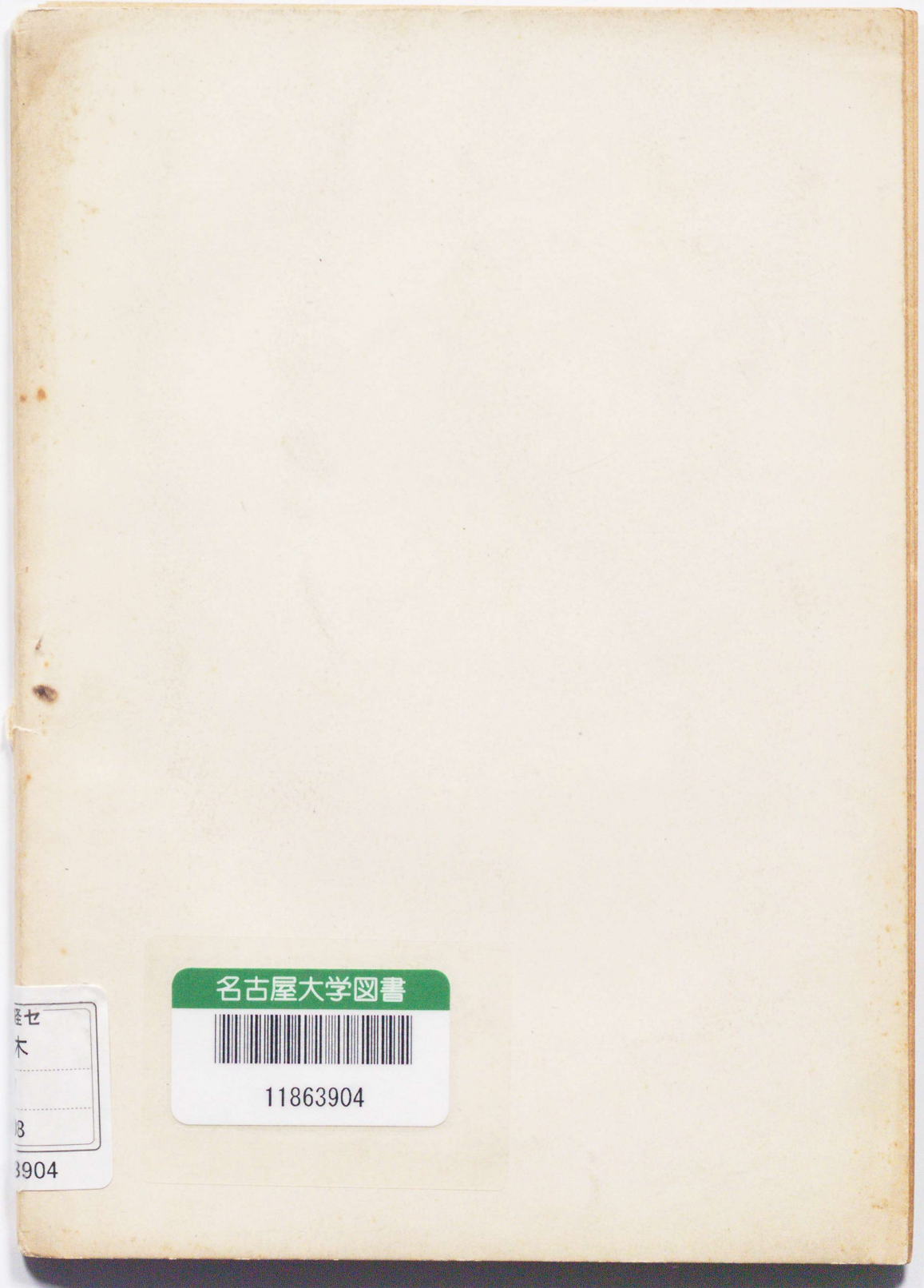
著作兼發行人 代表 鮎澤一巖
東京市麴町區有樂町一ノ五東京會館別館

印刷人 本間淳三郎
東京市牛込區矢來町三六番地

發行所 財團法人世界經濟調查會
東京市麴町區有樂町一ノ五東日會館別館



荒木光太郎文書 512



七
木
B
3904

名古屋大学図書



11863904